

# 令和6年度 清瀬市立清瀬第四小学校 学校経営方針

校長 長 沼 正 城

本校は、清瀬市教育委員会が示す育てたい4つの力 ①「故郷清瀬を誇りとし持続発展の主体者となる力」②「生きて働く知識・技能」、③「豊かな人間性と学び続け、成長し続ける力」、④「未知の状況でも活用できる思考力・判断力・表現力」の具現化を目指す

教育目標「すなおな明るい元気な子」「なかよく力を合わせる子」「よく考えやりぬく子」「自然に親しむ子」の具現化のために、以下の経営方針で教育活動を展開する。

## ◆学校の教育理念◆

“一人を大切に”、“誰一人取り残さない”をモットーに、素直な心を引き出し、生きる力を伸ばす“人間教育”を理念とする。

## ◆目指す学校像◆

学校像「明るい声が響き合い磨き合う清瀬四小」を目指し、「信頼」を柱にする学校として、思いや考えに寄り添い耳を傾けることを通して、児童一人一人に自信をもたせ、わくわく感・安心感・成就感を豊かにし、「生きる力」を育む学校を創造していく。

市教委の示す育てたい力と学校目標と目指す学校像の関連付けは、以下のとおりとする。

- (1) 「仲間大好き、先生大好き、人間大好き、自然大好き」と児童の笑顔が光る学校  
【すなおな明るい元気な子】 【自然に親しむ子】 …①
- (2) 主体的対話的な学びの過程で学力を付け、わかった！できた！もっとやりたい！が高まる学校  
【よく考えやりぬく子】 …②④
- (3) さまざまな個性・特性を受け入れる「共生」の心を育てる学校【なかよく力を合わせる子】 …③
- (4) 自分のすべきことを責任をもって行動し「自立」の心を育てる学校  
【すなおな明るい元気な子】 …③④
- (5) 思いや願いを共有する学校を推進し、清瀬第四小に学ばせてよかったと誇りをもてる学校…①  
保護者・地域・外部との「連携と情報共有」を密にする。

## ◆学校経営の方針と方策◆

- (1) 確かな学力の定着と学ぶ意欲の向上（分かりやすい授業、読書、タブレットPC活用の学習）
  - 教室環境と授業のユニバーサルデザイン化の定着。どの児童にも分かりやすい授業実践。
  - 「読める」「書ける」「話せる」「計算できる」「演奏できる」等の「基礎的な技能」について自信がつくよう個別に指導をする。
  - 「読書貯金シート」の活用、読書量の目標を決め「読書習慣」の定着、想像力の涵養を図る。
  - 校内研究「言語力の向上、想像力を豊かに」をキーワードにし、理論と実践を深めながら、「めあて」「思考」「学び合い」「ふりかえり」という学習過程を通して児童の変容を確実に把握し、児童へのフィードバックを通して達成感をもたせる。
  - 語彙力の向上を図るために、語彙の土台となる漢字力を培う。「清四漢検」の整備・実施。
  - 俳句や詩の音読・暗唱したり、発表や説明したり、集中して話を聞いたり質問したり等の言語活動によって、声を出すことに自信を持たせる。
  - 校内研究のエッセンスを他教科指導に生かし、丁寧に確実に実践を積み重ねる。
  - タブレットPC活用による主体的な学習過程で「探究心」を育んだり、個別最適な学習をおして「学びに向かう力」を養ったり、協働学習を広く深く展開したりする。（ミライシード活用）
  - 集中力・思考力、認知力等を養うために、コグニティブトレーニングを実施と効果の検証をする。

## (2) 人としての基礎づくり（人生100年時代を生き抜く豊かな心と体力の土台づくり）

- 「礼儀と規律」…褒めて評価し、具体的な良い行動を価値付け、自己肯定感を高める。
- 「凡事徹底」…気持ちのよいあいさつ・会釈の励行・返事・言葉遣い・整理整頓・清掃・物を大切に作る、くつのかかと揃えの定着を図る。
- 「命の教育」…「認知症サポーター養成講座」「ハンセン病資料館出前授業」「障害のある方との交流」等をとおして、人権意識を高め、自他の生命を尊重する態度を育てる。
- 「体力向上」（運動好き）…体力テストを踏まえた方策として、「マッスルデー」や「なわとび」「ランニング」等で生涯学習（自己体力向上・維持）の土台の場をつくる。
- 「運動量の確保」…外遊びの励行、体育授業の20分間以上の運動量の確保等で、体力向上の意識化を図る。
- 「SDGsの理念の行動化」…食べることは生きること、食べられることに感謝する食育を実施。「給食を残さず食べ切る」ことを目標にしつつ、自ら調整する力を育みながら粘り強さを育む。教科・総合的な学習等でカリキュラムマネジメントを工夫して実施する。
- 「社会性やボランティア精神」…にこにこ班（縦割り班）活動を通して思いやりの行動を価値づける。

## (3) 一人の子供を大切に、強い使命感と向上心をもって子供と向き合う教師像

- 軽微ないじめを見逃さない敏感なアンテナを張り、子供の困り感に素早く対応する。「いじめ防止基本方針」（本校HP参照）に則った対応を迅速に行う。奇数月に「ふれあいアンケート」を実施し、軽微ないじめを認知し解決する。【**いじめに毅然と対応する先生**】
- 不登校及び欠席の多い児童に、徹して寄り添い、あらゆる機会を通じて学校に足を運ぶ場をつくり受け入れる。【**安心感を与える先生**】
- 明るく元気に児童に向かう。【**登校する児童を教室で、笑顔で迎える先生**】
- できない落ち着かない児童の姿に寄り添い受け止める。【**子供の困り感にじっと耳を傾ける先生**】
- 児童のよさを見付け、伸ばし、広げ、価値づける【**ほめて励ます先生**】
- 自主性・主体性を尊重しつつ、やるべきことを最後まで粘り強く取り組ませる。【**見届ける先生**】
- \* 特別支援教室「きらり」との情報共有、アセスの結果をもとに児童理解を深める。【**関わり方を更新する先生**】

## (4) 保護者の思いや願いを真摯に受け止め、家庭や地域の連携を重視した学級・学年経営

- 年3回の個人面談を実施し、児童一人一人の「学習状況表」をもとにした情報共有と、今後の課題の方向性を共有していく。
- 日頃からの家庭と「連絡帳」や「電話」で、些細なことも報告・相談し、保護者との関係を築く。体調不良やケガは素早く連絡する。特に首から上のケガは早急な連絡と救急対応を行う。
- 学校ホームページによる発信を強化し、学校の取り組みを保護者・地域に知らせ、関心と協力を得るツールとする。情報発信のペーパーレス化を進める。
- 家庭でのタブレットPC等の使用指針となる「クローズドブック使い方のきまり」を周知し実施する。
- 主体的な家庭学習を推進する。宿題+自主勉強「学年×10+アルファ」を行い、分かる・分からない、できる・できないを明確にし、次の学習に向かう態度を育てる。
- 学年において、育てたい資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメントにより運動系・文化系・宿泊等の諸行事や、総合的な学習や学級活動、各教科指導の充実を図る。

(5) 開かれた学校づくり（学校支援本部との連携、地域の教育資源・人材の活用）

- 「児童のよりよい成長のため、保護者や地域市民が学校運営や教育活動に対する支援を行うこと」という趣旨の「学校支援本部」と連携を図り、教育活動のさらなる充実を図る。
- 学年・専科のニーズに応じたゲストティーチャーの依頼や、授業準備の取組で「授業支援」「行事支援」を推進する。
- 令和7年度実施の「コミュニティスクール」開始に向け、学校運営連絡協議会の発展を図る。
- 開かれた「校内研究会」として他校の教員の参加を受け入れながら、切磋琢磨の場とする。

◆教育への情熱と使命感にあふれ、センスを磨く教職員集団◆

～チーム<sup>きよし</sup>清四小 学年（ブロック）・専科、3部会3委員会のチームワークを軸にして～

(1) 謙虚に研鑽を続け、教員の資質・能力を高めるために切磋琢磨する教師集団

- 年間3回の授業観察・・・校内研究のテーマに即して授業力向上を図る。
- 年間のOJTミニ研修を計画・・・主任や主幹等が講師となり、その指導力向上の研修を開催。

(2) 問題を一人で抱え込まず、組織的に問題解決する教職員のチームワーク

- こまかな「報告・連絡・相談」で早期対応、早期決着。
- 一人でできないことは学年主任や分掌主任に、それでもできないことは、主幹や副校長に相談し、その解決策を見出すチームワーク力を発揮し、目の前の問題を解決していく。事務室でも同様に一人で抱え込まずに主幹や副校長に相談し問題を解決していく。
- できない理由を挙げるより、できる方策を考えるチームワーク。

(3) 「気づき」を大切に、「すきま」をフォローし素早く行動する教職員のチームワーク

- ★信頼される教師・社会人として、TPOに応じた礼儀や言葉遣いのセンスを磨き、高める。
- ※専科教員の臨機応変な動きが、職場を明るくし、物事をスムーズに運ぶ。
- ※安心して連携がとれる職場・校内環境。 →まず、先生自身があいさつを励行したい。